

特別講演会

主催：河合文化教育研究所

●講演 小松美彦 (東京大学大学院人文社会系研究科 死生学・応用倫理センター教授)

脳死者からの臓器移植は、1990年代末には新聞の号外が出るほど、センセーショナルな出来事として報じられました。

しかし近年では、1週間に1件の頻度で行われており、マスメディアが扱うこともほとんどない通常の医療となりました。また、2012年には、延命治療と呼ばれるものを、はじめから行わなかったり、あるいは途中でやめて、患者を死に至らせることを認める「尊厳死法案」が作成され、いつでも国会に上程できる状態にあります。

しかも、法律がなくとも、実質的な安楽死・尊厳死を実施できる指針が医学会によってつくられ、水面下ではそれが少なからず実行に移されつつあります。

現在の日本では、なぜ、このように脳死臓器移植と安楽死・尊厳死が推進されるのでしょうか。換言するなら、なぜ、脳死患者や安楽死・尊厳死の対象となる人々の命は、切りすてられていくのでしょうか。

本講演では、映像を交えながら、この医学問題を「生資本主義」と「生権力」という耳目に触れることのあまりない人文・社会科学の観点から、徹底的に考えてみたいと思います。

そして、その考察を通じて、「人間の尊厳」という誰しもが疑ったことのない至上の概念を、問いなおしてみたいと思います。



小松美彦 (こまつ・よしひこ)

1955年東京生まれ。元・河合塾小論文講師(1985～1993)。1989年、東京大学大学院理学系研究科科学史・科学基礎論博士課程単位取得。博士(学術、東京大学)。現在、東京大学大学院人文社会系研究科 死生学・応用倫理センター教授。人間の死生と現在の科学技術について、文理横断的・歴史縦断的に検討している。

著書：『脳死・臓器移植の本当の話』(PHP新書、2004)、『生権力の歴史——脳死・尊厳死・人間の尊厳をめぐる』(青土社、2012)、『「自己決定権」という罠——ナチスから相模原障害者殺傷事件まで』(言視舎、2018)他。共編著に、『メタバイオエシックスの構築へ——生命倫理を問いなおす』(NTT出版、2010)、『生命倫理の源流——戦後日本社会とバイオエシックス』(岩波書店、2014)他。

生資本主義・生権力・人間の尊厳

なぜ、脳死臓器移植と安楽死・尊厳死は推進されるのか

9月29日(土) 15:00～17:00
麹町校 8階 デルファイホール

〒102-0085 千代田区六番町 1-3

☎0120-192-599

- JR 総武線 / 市ヶ谷駅より徒歩 3 分
- 東京メトロ有楽町線・南北線・都営新宿線 / 市ヶ谷駅 3 番出口より徒歩 3 分
- JR 中央線・総武線 / 四ツ谷駅麹町口より徒歩 5 分
- 東京メトロ丸ノ内線・南北線 / 四ツ谷駅 1 番出口より徒歩 6 分
- 東京メトロ有楽町線 / 麹町駅 6 番出口より徒歩 2 分

※塾生の方以外の一般の方も、学校・学年問わずご参加いただけます。

入場無料 申込不要

